



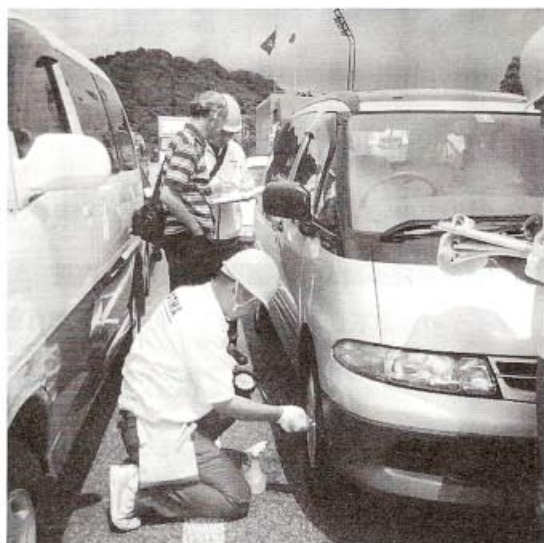
第35回 東名高速道路におけるタイヤ点検アンケート調査の結果報告

社団法人日本自動車タイヤ協会（会長 片岡善雄）は、関係各位のご協力を得て、去る7月25日、東名高速道路・浜名湖サービスエリアに駐車中の自動車のタイヤ点検並びにそのドライバーを対象にアンケート調査を行いましたので、その結果をここに発表致します。

なお、当会のこのタイヤ点検は、タイヤ整備不良に起因する自動車事故の未然防止を図るため行っているもので、東名高速道路が全線開通した昭和44年から毎年実施しておりますが、今回で35回目となりました。

日本道路公団の平成14年統計によると、高速道路上における自動車故障（平成13年実績）は年間150,145件発生しており、そのうちワースト1位は、「タイヤ（ホイール）破損」で約26.7%（40,125件）を占めています。

この故障の多くは、空気圧不足や外傷等タイヤ整備不良により発生したものと、当会では推定しており、当会のタイヤ点検で「タイヤ整備不良」が多いことはそれを裏付けています。



● タイヤ点検・アンケート調査の対象車種及び目的

項目	対象車種	目的
タイヤ点検	乗用車 大型バス トラック	タイヤ整備不良に起因する自動車事故の未然防止を図る。
アンケート調査	乗用車 大型バス	タイヤ使用に関するドライバーの意識を調査し、正しい使用・管理方法をPRする。

● 後 援

経済産業省
国土交通省
社団法人 日本自動車工業会

● 協 力

中部運輸局
関東管区警察局 川崎高速道路管理室
静岡県警察本部 交通部 高速道路交通警察隊
日本道路公団 東京管理局
社団法人 日本自動車連盟 中部本部

1. タイヤ点検結果の概要

今回、タイヤ点検を行った車両は乗用車226台、大型バス57台及びトラック105台の合計388台ですが、これらの車両のタイヤ整備の概要は次の通りです。

1-1 タイヤ整備の「車種別」状況について

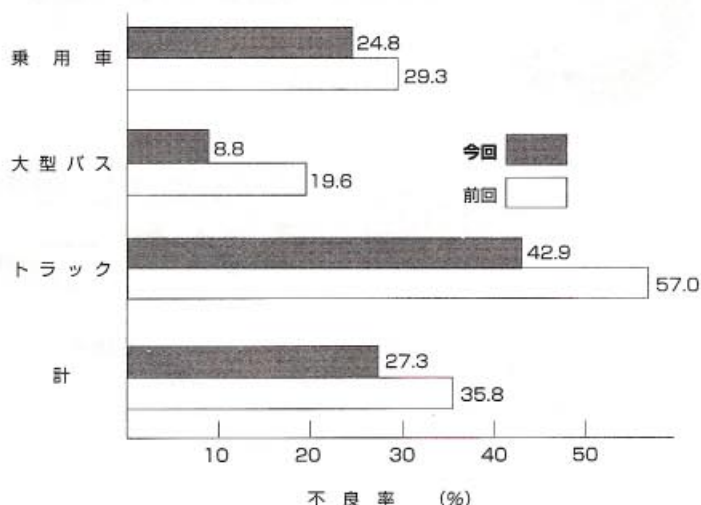
タイヤ点検を行った車両388台のタイヤ整備状況は表-1の通りです。

表-1 タイヤ整備の「車種別」状況

車種	点検車両	タイヤ整備不良車両	不良率	増減	前回不良率
乗用車	226台	56台	24.8%	-4.5	29.3%
大型バス	57	5	8.8	-10.8	19.6
トラック	105	45	42.9	-14.1	57.0
計	388	106	27.3	-8.5	35.8

- 1) タイヤの整備不良車両は388台のうち106台であり、不良率は27.3%になっています。
- 2) タイヤの整備状況を車種別にみると、不良率が一番高かったのはトラックで42.9%、次いで乗用車24.8%、大型バス8.8%の順となっています。
- 3) タイヤの整備状況について今回と前回は比べると、全体の不良率は8.5ポイント減少しており、良い結果が出たといえます。(図-1参照)

図-1 車種別・タイヤ整備不良率の比較



1-2 タイヤ整備不良の「車種別・項目別」内訳

タイヤの整備不良車両106台の「車種別・項目別 (126件)」内訳は表-2の通りです。

表-2 タイヤ整備不良の「車種別・項目別」内訳

不良項目	乗用車		大型バス		トラック		計		増減	前回不良率
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合		
タイヤ溝不足	0	0.0%	2	3.5%	20	19.0%	22	5.7%	-1.7	7.4%
偏摩耗	7	3.1	3	5.3	18	17.1	28	7.2	-5.1	12.3
外傷	1	0.4	1	1.8	3	2.9	5	1.3	+0.4	0.9
釘・異物踏み	2	0.9	1	1.8	4	3.8	7	1.8	-1.4	3.2
空気圧不足	43	19.0	—	—	—	—	43	19.0	-4.7	23.7
その他	9	4.0	0	0.0	12	11.4	21	5.4	0.0	5.4
計	62	—	7	—	57	—	126	—	—	—

注)①空気圧の点検は、乗用車は実測にて実施。

- 1) タイヤ整備の不良項目 (計) を見ると、不良率1位は空気圧不足で19.0%、次いで偏摩耗が7.2%、タイヤ溝不足が5.7%の順となっています。
- 2) 不良項目を車種別にみると、特徴が次の通り明確に分かります。なお、これらの不良率の高い項目について、当会は、整備の重要性を積極的にPRすることとしています。

<不良項目1位>

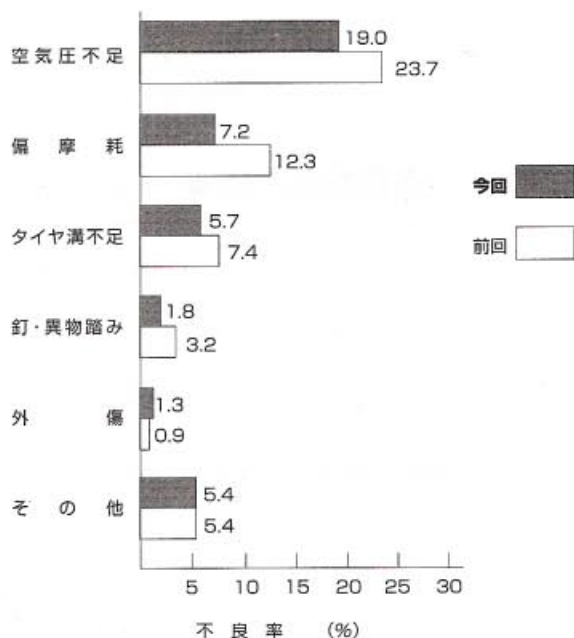
乗用車 空気圧不足

大型バス 偏摩耗

トラック タイヤ溝不足

- 3) タイヤ整備の不良項目について今回と前回は比べると、図-2の通り空気圧不足は4.7ポイントの減少、偏摩耗は5.1ポイントの減少、タイヤ溝不足は1.7ポイントの減少となっています。

図-2 項目別・タイヤ整備不良率の比較



表—3 第35回 東名高速道路におけるタイヤ点検結果

	前回(参考) 第34回(2002.8.2)				今 回 第35回(2003.7.25)				増 減	
	乗用車	大型バス	トラック	計	乗用車	大型バス	トラック	計		
A. 点検車両 (台)	198	51	100	349	226	57	105	388	—	
B. タイヤ整備 不良車両 (台)	58	10	57	125	56	5	45	106	—	
B/A. 不良率 (%)	29.3	19.6	57.0	35.8	24.8	8.8	42.9	27.3	-8.5	
タイヤ整備不良の内訳(件数)	タイヤ 溝 不 足	3 (1.5)	0	23 (23.0)	26 (7.4)	0	2 (3.5)	20 (19.0)	22 (5.7)	-1.7
	偏 摩 耗	11 (5.6)	9 (17.6)	23 (23.0)	43 (12.3)	7 (3.1)	3 (5.3)	18 (17.1)	28 (7.2)	-5.1
	外 傷 (ロードに 通ずるもの)	0	0	3 (3.0)	3 (0.9)	1 (0.4)	1 (1.8)	3 (2.9)	5 (1.3)	+0.4
	釘・異物踏み	5 (2.5)	0	6 (6.0)	11 (3.2)	2 (0.9)	1 (1.8)	4 (3.8)	7 (1.8)	-1.4
	空 気 圧 不 足	47 (23.7)	—	—	47 (23.7)	43 (19.0)	—	—	43 (19.0)	-4.7
	そ の 他	3 (1.5)	1 (2.0)	15 (15.0)	19 (5.4)	9 (4.0)	0	12 (11.4)	21 (5.4)	0.0
	計	69	10	70	149	62	7	57	126	—

注) 1. 1台の車両で複数のタイヤ整備不良(項目)がある場合がある為、タイヤ整備不良車両台数とタイヤ整備不良件数は必ずしも一致しない。
2. 不良率: 「タイヤ整備不良車両台数又は不良項目件数」/「点検車両台数」×100
なお、「タイヤ整備不良の内訳(件数)」の()は不良率を示す。

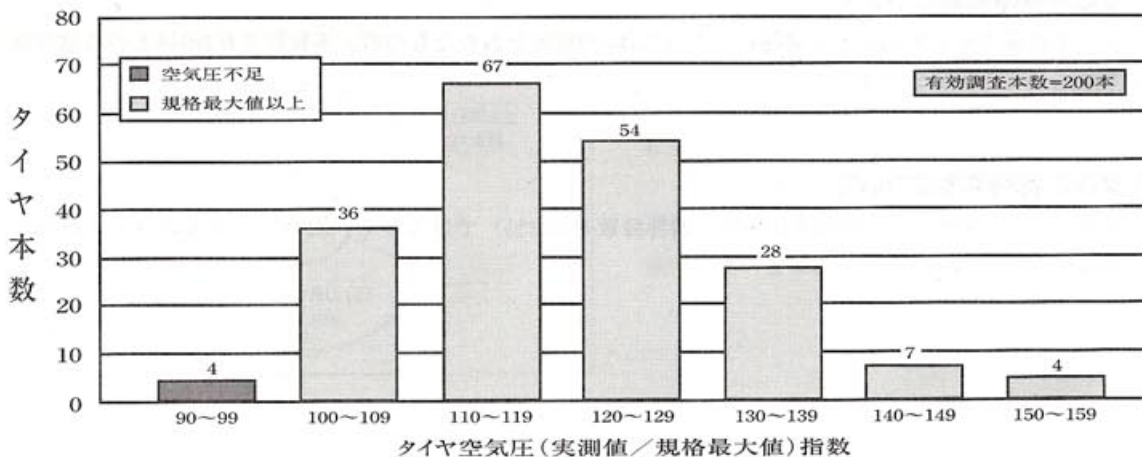
1-3 トラック(積載4t以上)の空気圧実測結果について

空気圧管理の啓発をより一層推進することを目的に、トラック(積載4t以上)の車両についても空気圧実測を行いました。

このことから、トラック(積載4t以上)空気圧点検専門チームを設けて実施した点検結果は後述の通りです。

- 1) トラック(積載4t以上)の空気圧点検を実施したところ、100台中3台に装着されたタイヤでは空気圧不足の状態がありました。
- 2) 不良率は3.0%と前回(点検台数91台、空気圧不足車両3台、不良率3.3%)同様良い結果ではありますが、若干の不良車両もあるため引き続き空気圧管理に関するPRが必要と考えられます。

図—3 タイヤ規格最大値に対するユーザー空気圧管理実態(大型トラック)



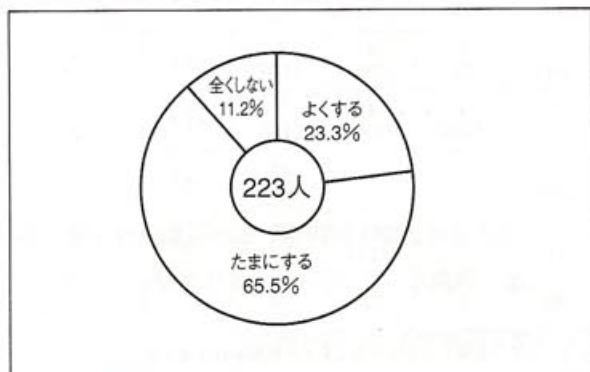
2. アンケート調査結果の概要

今回のアンケート調査では、乗用車のドライバー223人、大型バスのドライバー55人にご回答を戴きました。それぞれの質問に対する回答は次の通りです。

(グラフの中心に表示している数字は当該質問の有効回答者数です)

《乗用車》

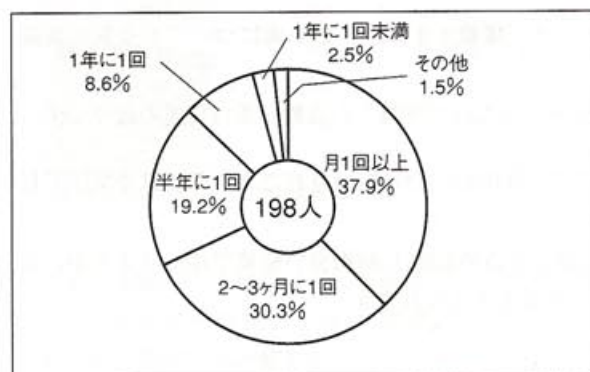
Q1 日頃タイヤ点検をすることがどの程度ありますか？



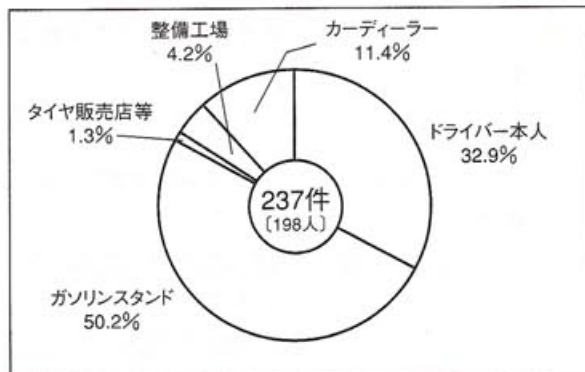
点検する	198人 (88.8%)	よくする	52人 (23.3%)
全くしない	25人 (11.2%)	たまにする	146人 (65.5%)

タイヤの日常点検実施については、52人が「よくする」(23.3%) 146人が「たまにする」(65.5%) とかなり多くの方が行っているものの、「全くしない」という人が25人(11.2%) いることから、その必要性に対する意識が充分だとはいえません。

Q1-2 それほどの位の頻度で行いますか？



Q1-3 誰が(又はどこで)点検を行いますか？(複数回答)



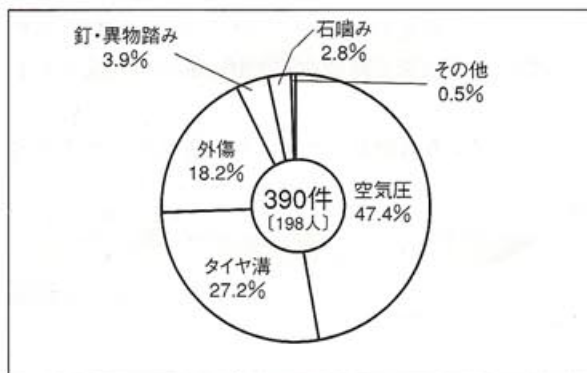
タイヤの日常点検頻度について

前質問(Q1)で日常点検を実施すると回答した人は全体の9割弱を占めたものの、本質問で月1回以上の点検実施者は4割に満たないことがわかりました。

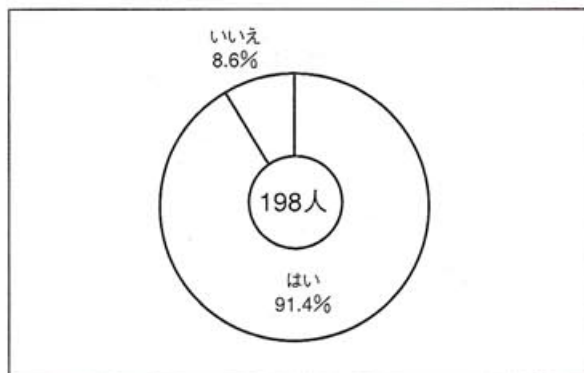
タイヤ点検の実施場所について

ガソリンスタンドで点検するとの回答が119件(回答総数の50.2%)で最も多く、次いでドライバー本人が78件(32.9%)となっています。

Q1-4 何を点検しましたか？(複数回答)



Q1-5 空気圧はエアゲージで点検していますか？



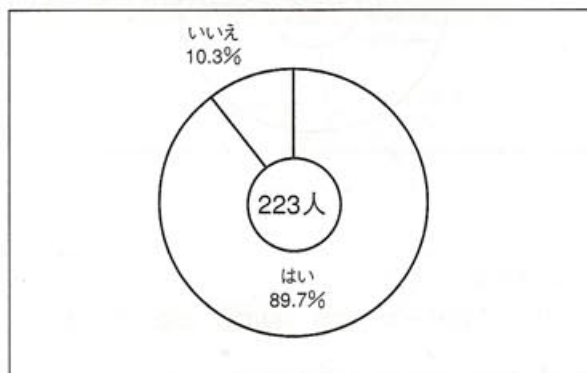
タイヤの点検項目について

実際にタイヤを点検する際の実施項目については、「空気圧」を点検するとの回答が185件（回答総数の47.4%）で最も多く、次いで「タイヤ溝」の点検が106件（27.2%）となっています。

エアゲージの使用について

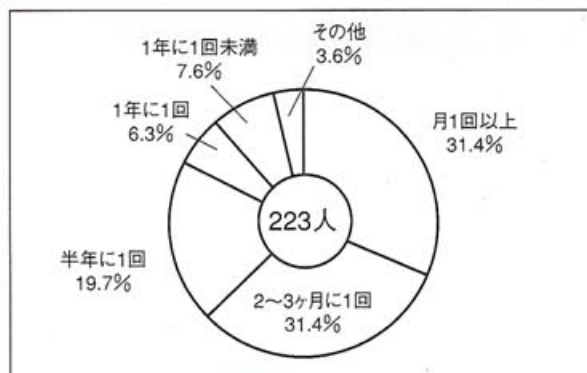
エアゲージを使用して空気圧を点検していると回答された人は198人中181人（91.4%）でした。

Q2 タイヤの空気は自然に漏れると思いますか？



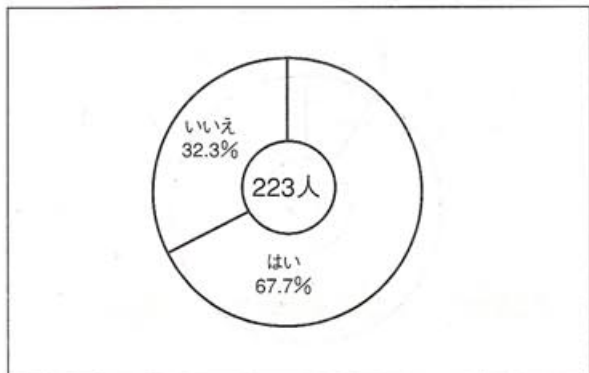
223人中、200人（89.7%）がタイヤ内の空気が自然に漏れることを知っているとは回答されました。しかし、このことを知っているも実際には空気圧点検をしない人が依然としている実情を踏まえ、当会では、日頃からエアゲージを使用し空気圧点検を実施してもらうよう尚一層の啓発活動に努めます。

Q3 タイヤの空気圧はどの位の頻度で点検していますか？



223人中、「月1回以上点検する」が70人（31.4%）、「2~3ヶ月に1回点検する」も70人（31.4%）おります。また、「半年に1回点検をする」など点検頻度が非常に少ない人が全体の3割以上を占めています。タイヤの空気圧は自然に低下するので、当会としては最低1ヶ月に1度は空気圧の点検をしていただくことを推奨しています。

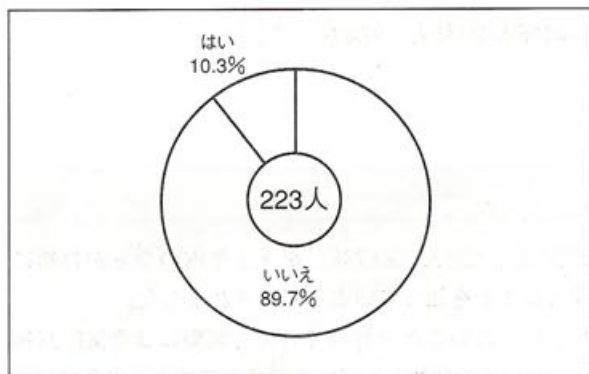
Q4 指定空気圧がどこに表示されているかご存知ですか？



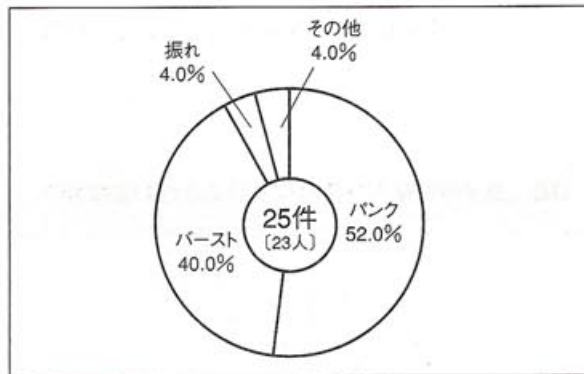
知っていると答えた人は223人中151人（67.7%）おりました。前回結果と比較すると10.2ポイント減少しています。

自分が使用する自動車（タイヤ）をきちんと保守管理するという基本をもう少し認識していただきたいものです。

Q5 高速道路を走行中、タイヤトラブルを起こしたことがありますか？



Q5-1 それはどんなトラブルですか？ (複数回答)



走行中のトラブルは重大な事故につながりやすく危険です。

タイヤトラブルの経験があると回答された人は23人（10.3%）いました。

また、そのトラブル内容はパンクが13件（回答総数の52.0%）で1位、次にバースト10件（40.0%）となっています。

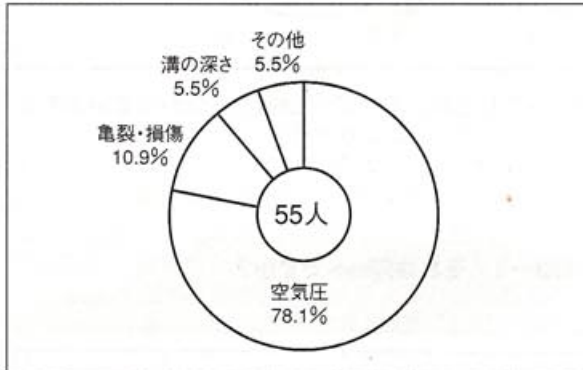
《大型バス》

Q1 出発前にタイヤ点検をしましたか？

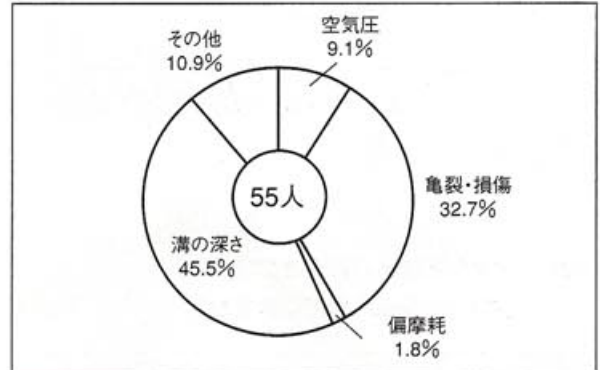
アンケートの結果、すべてのドライバー（55人）は出発前にタイヤ点検を行っています。

Q1-2 何を重点的に点検しましたか？（2つ挙げて下さい）

重点度1位

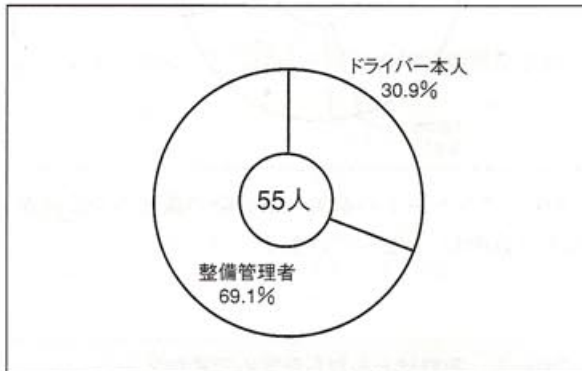


重点度2位



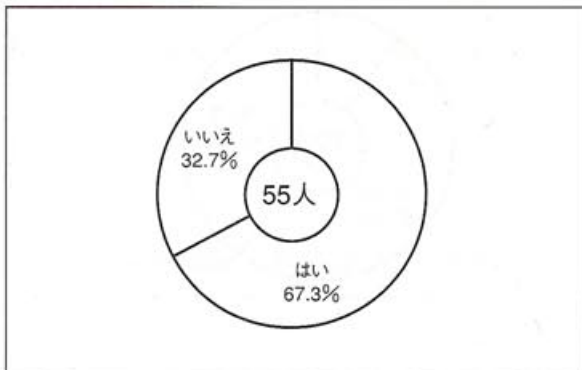
55人中43人（78.1%）は空気圧を第一に重点を置いて点検しています。

Q2 タイヤの月例点検は誰が行いましたか？



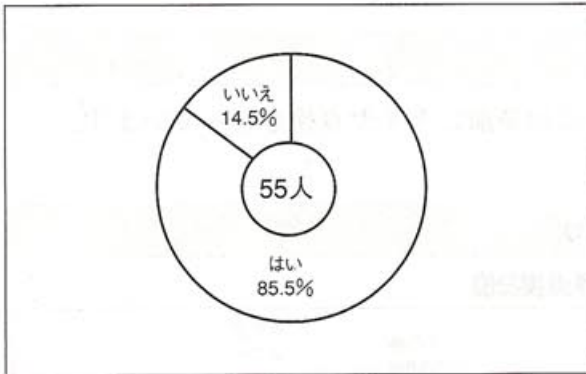
自分自身でタイヤの点検を行ったという人は17人（30.9%）、整備管理者が行ったという人は38人（69.1%）でした。

Q3 このバスのタイヤの指定空気圧を知っていますか？



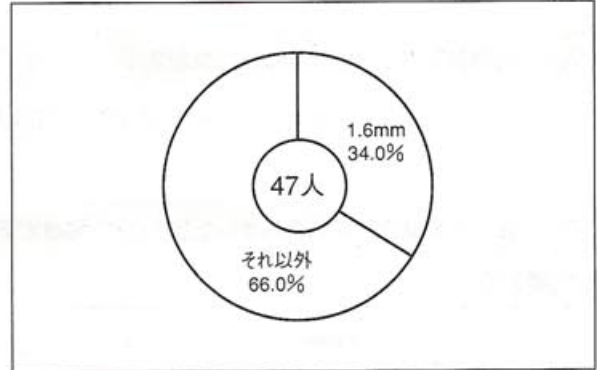
指定空気圧を知っていると回答された人は37人（67.3%）、知らないと回答された人は18人（32.7%）でした。

Q4 「スリップサイン」という言葉を知っていますか？

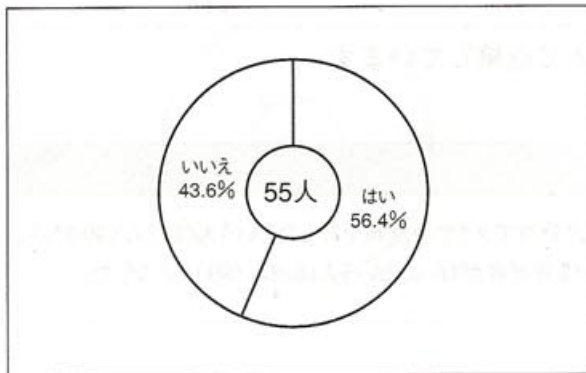


スリップサインを知っていると回答された人は47人（85.5%）いましたが、その値が1.6mmと分かっている人は16人（34.0%）でした。

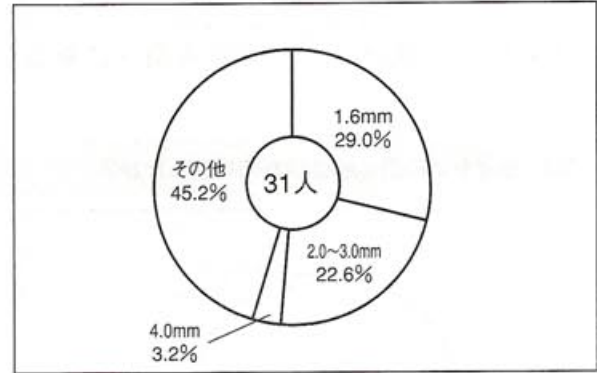
Q4-1 それは残り溝何mmであられますか？



Q5 タイヤ取替時の溝深さについて、会社から指示されていますか？

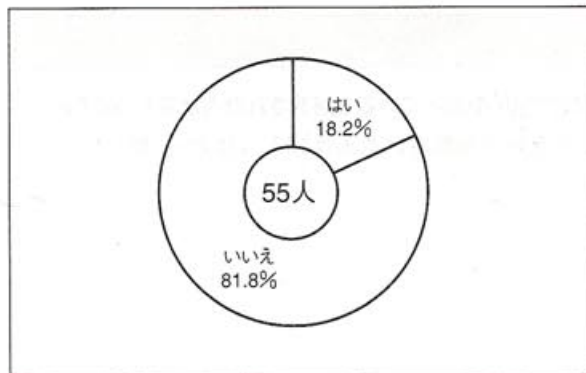


Q5-1 それは何mmですか？

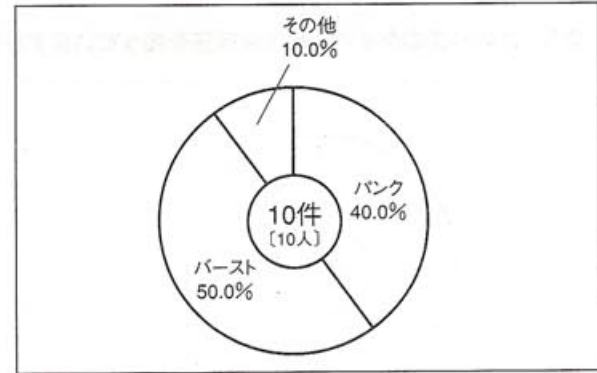


大型バスでは高速走行時の摩耗限度が3.2mmと規定されています。アンケートの結果、取替時の溝深さを会社から指定されているドライバーは31人（56.4%）、指示なしは24人（43.6%）となっています。

Q6 高速道路を走行中、タイヤトラブルを起こしたことがありますか？



Q6-1 それはどんなトラブルですか？（複数回答）



タイヤトラブルの経験があると回答された人は10人（18.2%）いました。また、そのトラブル内容はバーストが5件（回答総数の50.0%）で1位、次にパンクが4件（40.0%）となっています。